

平成22年度（2010年度） 文学部専門教育科目授業日程計画

前 期										後 期													
月	曜日	日	月	火	水	木	金	土	日	備 考	月	曜日	日	月	火	水	木	金	土	日	備 考		
4月						1	2	3		1日～7日 春季休業 1日 新入生オリエンテーション 2日 新入生履修相談会 3日 TOEIC-IPテスト 8日 入学式、新入生オリエンテーション 9日 授業開始 29日～5月5日 特別休業 29日 昭和の日 注：4月30日は休業日であるが授業を行う。	10月								1	2			11日 体育の日 22日 開学記念日 注：休業日であるが授業を行う。
		4	5	6	7	8	9	10				3	4	5	6	7	8	9					
		11	12	13	14	15	16	17				10	11	12	13	14	15	16					
		18	19	20	21	22	23	24				17	18	19	20	21	22	23					
		25	26	27	28	29	30					24	25	26	27	28	29	30					
5月									1	3日 憲法記念日 4日 みどりの日 5日 こどもの日	11月			1	2	3	4	5	6			3日 文化の日 【20日～22日 大学祭】 19日 午前：臨時休講 午後：臨時休業(大学祭準備) 22日 臨時休業 23日 勤労感謝の日(大学祭後片付け)	
		2	3	4	5	6	7	8				7	8	9	10	11	12	13					
		9	10	11	12	13	14	15				14	15	16	17	18	19	20					
		16	17	18	19	20	21	22				21	22	23	24	25	26	27					
		23	24	25	26	27	28	29				28	29	30									
6月				1	2	3	4	5		19日 海の日 * 23日は月曜日の授業を行う。	12月					1	2	3	4			23日 天皇誕生日 25日～1月7日 冬季休業	
		6	7	8	9	10	11	12				5	6	7	8	9	10	11					
		13	14	15	16	17	18	19				12	13	14	15	16	17	18					
		20	21	22	23	24	25	26				19	20	21	22	23	24	25					
		27	28	29	30							26	27	28	29	30	31						
7月						1	2	3		1日～9月30日 夏季休業 注：8月2日-5日は休業日であるが授業を行う。 6日～7日 オープンキャンパス (学部によっては前後を含むことがある。) 9日～11日 補講日 12日・13日・16日 夏季一斉休業 17日～20日 集中講義A 24日～27日 集中講義B 31日～9月3日 集中講義C	1月									1		1日 元日 注：7日は冬季休業日であるが授業を行う。 10日 成人の日 * 11日は月曜日の授業を行う。 14日 センター試験実施に伴う 臨時休講 15日・16日 大学入試センター試験	
		4	5	6	7	8	9	10				2	3	4	5	6	7	8					
		11	12	13	14	15	16	17				9	10	11	12	13	14	15					
		18	19	20	21	22	23	24				16	17	18	19	20	21	22					
		25	26	27	28	29	30	31				23	24	25	26	27	28	29					
8月										7日～10日 集中講義D 14日～17日 集中講義E 20日 敬老の日 23日 秋分の日 27日～30日 集中講義F	2月				1	2	3	4	5			11日 建国記念の日 16日～17日 補講日 16日～3月31日 臨時休講 25日・26日 一般入試(前期日程)	
		1	2	3	4	5	6	7				6	7	8	9	10	11	12					
		8	【9】	【10】	【11】	12	13	14				13	14	15	【16】	【17】	18	19					
		15	16	17	18	19	20	21				20	21	22	23	24	25	26					
		22	23	24	25	26	27	28				27	28										
9月				1	2	3	4			臨時休講	3月				1	2	3	4	5			12日 一般入試(後期日程) 21日 春分の日 25日 卒業式	
		5	6	7	8	9	10	11				6	7	8	9	10	11	12					
		12	13	14	15	16	17	18				13	14	15	16	17	18	19					
		19	20	21	22	23	24	25				20	21	22	23	24	25	26					
		26	27	28	29	30						27	28	29	30	31							
前期計		16	16	16	16	16				授業週数(含試験)	後期計	16	16	16	16	16					授業週数(含試験)		

↑ 7月23日を含む

↑ 1月11日を含む

- 注) 1. ■ は休業日及び臨時休講, 【 】は補講日を示します。
 2. 夏季休業・冬季休業期間中においても授業・試験を行うことがあります。
 3. 前期卒業予定者は集中講義を履修できません。集中講義の詳細は、別途掲示します。
 4. 上記日程計画以外の休講、補講等については別途掲示します。

6. 岡山大学文学部履修細則

次頁からの卒業資格単位数及び副専攻コース修了資格単位数等は、入学した年度の学生便覧に掲載されているものが適用されるので、注意してください。(ただし、編入学・転学部等の場合を除く。)

第1条 この細則は、岡山大学文学部規程第8条第4項の規定に基づき、岡山大学文学部（以下「本学部」という。）における授業科目の単位の履修方法について必要な事項を定めるものとする。

第2条 本学部の学科に、それぞれ次のとおり各専修コース及び副専攻コースを設ける。

- 2 学生は、入学後指定の期日までに、所属を希望する専修コースを学部長に届け出て許可を受けなければならない。
- 3 前項の希望者が専修コースごとの収容限度数を超える場合は、選考の上、所属を決定する。
- 4 所属した専修コースの変更を志望するものがあるときは、教授会の議を経て、許可することがある。

学科	専修コース	副専攻コース
人文学科	哲学芸術学専修コース 行動科学専修コース 歴史文化学専修コース 言語科学専修コース 言語文化学専修コース	英語副専攻コース ドイツ語副専攻コース フランス語副専攻コース 中国語副専攻コース

第3条 各専修コースの卒業資格単位数及び各副専攻コースの修了資格単位数は、別表に掲げるとおりとする。

附 則

- 1 この細則は、平成7年4月1日から施行する。
- 2 平成6年度以前の入学者については、なお従前の例による。

(附 則 以下中略)

附 則

- 1 この細則は、平成22年4月1日から施行する。
- 1 平成21年度以前の入学者については、なお従前の例による。

人文学科 哲学芸術学専修コース
授業科目の履修方法

授業科目区分		授業科目名	卒業資格単位	配当年次	
教養教育科目	ガイダンス科目	人文学の基礎	2単位	1年次前期	
	主 題 科 目	現代の課題	3つ以上の グループに わたり、6 単位	3.2単位	1～2年次
		人間と社会			
		健やかに生きる			
		自然と技術			
	個別科目				
外国語科目	英語（ネイティブ）	2単位			
	基礎英語は卒業資格単位 として認めない。	1.2単位			
専門教育科目	必 修 科 目	人文学への招待（哲学芸術学） 人文学への招待（行動科学） 人文学への招待（歴史文化学） 人文学への招待（言語科学） 人文学への招待（言語文化学）	2単位	1年次前期	
		人文学入門演習（哲学芸術学） 人文学入門演習（行動科学） 人文学入門演習（歴史文化学） 人文学入門演習（言語科学） 人文学入門演習（言語文化学）	2単位	1年次後期	
	専 門 科 目	哲学概説1 哲学概説2 倫理学概説1 倫理学概説2 芸術学概説1 芸術学概説2 芸術表象論概説1 芸術表象論概説2 美術史概説1 美術史概説2 思想史概説1 思想史概説2	8単位	1～3年次	
		哲学講義 倫理学講義 美学講義 芸術学講義 芸術表象論講義 日本美術史講義 西洋美術史講義 思想史講義	8単位	2～4年次	
		哲学演習 倫理学演習 美学演習 芸術学演習 芸術表象論演習 日本美術史演習 西洋美術史演習 思想史演習	8単位	2～4年次	
		哲学芸術学課題演習	6単位	3年次後期 ～4年次	
		自 由 科 目	文学部の全ての専門教育科目 他学部の全ての専門教育科目	4.6単位	1～4年次
		専門科目	卒業論文	1.0単位	4年次
合 計 単 位			12.4単位		

人文学科 行動科学専修コース
授業科目の履修方法

授業科目区分		授業科目名	卒業資格単位	配当年次	
教養教育科目	ガイダンス科目	人文学の基礎	2単位	1年次前期	
	主 題 科 目	現代の課題	3つ以上の グループに わたり、6 単位	32単位	1～2年次
		人間と社会			
		健やかに生きる			
		自然と技術			
	個別科目				
	外国語科目	英語（ネイティブ）	2単位	基礎英語は卒業資格単位 として認めない。	12単位
専門教育科目	専 門 科 目	必修科目 人文学への招待（哲学芸術学） 人文学への招待（行動科学） 人文学への招待（歴史文化学） 人文学への招待（言語科学） 人文学への招待（言語文化学）	2単位	1年次前期	
			人文学入門演習（哲学芸術学） 人文学入門演習（行動科学） 人文学入門演習（歴史文化学） 人文学入門演習（言語科学） 人文学入門演習（言語文化学）	2単位	1年次後期
			心理学概説1 心理学概説2 人文地理学概説 自然地理学概説 社会学概説1 社会学概説2 文化人類学概説1 文化人類学概説2 社会文化学概説	8単位	1～3年次
			心理学講義 地理学講義 地誌学講義 社会学講義 文化人類学講義 社会文化学講義	8単位	2～4年次
			心理学演習 地理学演習 社会学演習 文化人類学演習 社会文化学演習 行動科学実験・調査演習	8単位	2～4年次
		行動科学課題演習	6単位	3年次後期 ～4年次	
	自由科目	文学部の全ての専門教育科目 他学部の全ての専門教育科目	46単位	1～4年次	
専門科目	卒業論文	10単位	4年次		
合計単位			124単位		

人文学科 歴史文化学専修コース
授業科目の履修方法

授業科目区分		授業科目名	卒業資格単位	配当年次	
教養教育科目	ガイダンス科目	人文学の基礎	2単位	1年次前期	
	主 題 科 目	現代の課題	3つ以上の グループに わたり、6 単位	32単位	1～2年次
		人間と社会			
		健やかに生きる			
		自然と技術			
	個別科目				
外国語科目	英語（ネイティブ）	2単位	基礎英語は卒業資格単位 として認めない。	12単位	
専門教育科目	専 門 科 目	必修科目 人文学への招待（哲学芸術学） 人文学への招待（行動科学） 人文学への招待（歴史文化学） 人文学への招待（言語科学） 人文学への招待（言語文化学）	2単位	1年次前期	
			人文学入門演習（哲学芸術学） 人文学入門演習（行動科学） 人文学入門演習（歴史文化学） 人文学入門演習（言語科学） 人文学入門演習（言語文化学）	2単位	1年次後期
			日本史概説1 日本史概説2 アジア史概説1 アジア史概説2 西洋史概説1 西洋史概説2 考古学概説1 考古学概説2	8単位	1～3年次
			日本史講義 アジア史講義 西洋史講義 考古学講義 比較宗教史講義 文化交流史講義	8単位	2～4年次
			日本史演習 アジア史演習 西洋史演習 考古学演習	8単位	2～4年次
		歴史文化学課題演習	6単位	3年次後期 ～4年次	
	自由科目	文学部の全ての専門教育科目 他学部の全ての専門教育科目	46単位	1～4年次	
専門科目	卒業論文	10単位	4年次		
合計単位			124単位		

人文学科 言語科学専修コース
授業科目の履修方法

授業科目区分		授業科目名	卒業資格単位	配当年次	
教養教育科目	ガイダンス科目	人文学の基礎	2単位	1年次前期	
	主 題 科 目	現代の課題	3つ以上の グループに わたり、6 単位	3.2単位	1～2年次
		人間と社会			
		健やかに生きる			
		自然と技術			
	個別科目				
	外国語科目	英語（ネイティブ）	2単位	1.2単位	
基礎英語は卒業資格単位として認めない。					
専門教育科目	専 門 科 目	必修科目 人文学への招待（哲学芸術学） 人文学への招待（行動科学） 人文学への招待（歴史文化学） 人文学への招待（言語科学） 人文学への招待（言語文化学）	2単位	1年次前期	
			人文学入門演習（哲学芸術学） 人文学入門演習（行動科学） 人文学入門演習（歴史文化学） 人文学入門演習（言語科学） 人文学入門演習（言語文化学）	2単位	1年次後期
		言語学概説 日本語学概説1 日本語学概説2 英語学概説 ドイツ語学概説 フランス語学概説	8単位	1～3年次	
		言語学講義1 言語学講義2 言語学講義3 日本語学講義1 日本語学講義2 英語学講義 ドイツ語学講義 フランス語学講義	8単位	2～4年次	
		言語学演習1 言語学演習2 言語学演習3 日本語学演習 英語学演習 ドイツ語学演習 フランス語学演習	8単位	2～4年次	
		言語科学課題演習	6単位	3年次後期 ～4年次	
	自由科目	文学部の全ての専門教育科目 他学部の全ての専門教育科目	4.6単位	1～4年次	
	専門科目	卒業論文	1.0単位	4年次	
合計単位			12.4単位		

人文学科 言語文化学専修コース
授業科目の履修方法

授業科目区分		授業科目名	卒業資格単位	配当年次	
教養教育科目	ガイダンス科目	人文学の基礎	2単位	1年次前期	
	主 題 科 目	現代の課題	3つ以上の グループに わたり、6 単位	3.2単位	1～2年次
		人間と社会			
		健やかに生きる			
		自然と技術			
	個別科目				
外国語科目	英語（ネイティブ）	2単位			
	基礎英語は卒業資格単位として認めない。	1.2単位			
専門教育科目	専 門 科 目	必修科目 人文学への招待（哲学芸術学） 人文学への招待（行動科学） 人文学への招待（歴史文化学） 人文学への招待（言語科学） 人文学への招待（言語文化学）	2単位	1年次前期	
		人文学入門演習（哲学芸術学） 人文学入門演習（行動科学） 人文学入門演習（歴史文化学） 人文学入門演習（言語科学） 人文学入門演習（言語文化学）	2単位	1年次後期	
		日本語文化学概説1 日本語文化学概説2 中国言語文化学概説1 中国言語文化学概説2 英米言語文化学概説1 英米言語文化学概説2 ドイツ言語文化学概説1 ドイツ言語文化学概説2 フランス言語文化学概説1 フランス言語文化学概説2	8単位	1～3年次	
		言語文化学講義 日本語文化学講義 中国言語文化学講義 英米言語文化学講義 ドイツ言語文化学講義 フランス言語文化学講義	8単位	2～4年次	
		言語文化学演習 日本語文化学演習 中国言語文化学演習 英米言語文化学演習 ドイツ言語文化学演習 フランス言語文化学演習	8単位	2～4年次	
		言語文化学課題演習	6単位	3年次後期 ～4年次	
	自由科目	文学部の全ての専門教育科目 他学部の全ての専門教育科目	4.6単位	1～4年次	
専門科目	卒業論文	1.0単位	4年次		
合計単位			12.4単位		

備考

1. 自由科目とは、各専修コースにおいて、必修科目として指定された科目以外の専門教育科目をいう。これは、他学部開講の専門教育科目を含むものとする。
また、必修科目として規定された単位数を超えて修得した単位もこの科目の単位とすることができる。
2. 年次とは、入学後の年数をいい、入学後1年目を1年次、2年目を2年次、3年目を3年次、4年目を以降を4年次という。
3. 外国人留学生にあつては、教養教育科目の外国語科目のうち、英語（ネイティブ）2単位を他の外国語科目の単位をもって換えることができる。

人文学科 英語副専攻コース

授業科目の履修方法

英語副専攻コースは2年次より開講する。

授業科目区分		授業科目名	修了資格単位	履修順序
専門教育科目	専 門 科 目	必修科目	英文読解1 英文読解2 英文読解3 時事英語1 時事英語2 時事英語3	8単位 履修1年目～
		英語コミュニケーション1 英語コミュニケーション2 英語コミュニケーション3	4単位 履修1年目～	
		英語表現法1 英語表現法2 英語表現法3	8単位 履修1年目～	
		英語コミュニケーション4 英語コミュニケーション5 英語コミュニケーション6	4単位 履修2年目～	
合計単位			24単位	

人文学科 ドイツ語副専攻コース

授業科目の履修方法

ドイツ語副専攻コースは1年次より開講する。

授業科目区分		授業科目名	修了資格単位	履修順序
教養教育科目	外国語科目	ドイツ語初級Ⅰ ドイツ語初級Ⅱ	修得することが望ましい。	履修1年目
		ドイツ語中級	修得することが望ましい。	履修2年目
		専門教育科目	必修科目	ドイツ語コミュニケーション1 ドイツ語コミュニケーション2 ドイツ語コミュニケーション3 ドイツ語コミュニケーション4 時事ドイツ語 ドイツ語コミュニケーション5 ドイツ語コミュニケーション6 ドイツ語翻訳法 ドイツ語読解法 ドイツ語表現法1 ドイツ語表現法2 ドイツ語上級
	選択科目	ドイツ文化論	0～2単位	履修1年目
合計単位			24単位	

人文学科 フランス語副専攻コース

授業科目の履修方法

フランス語副専攻コースは1年次より開講する。

授業科目区分		授業科目名	修了資格単位	履修順序
教養教育科目	外国語科目	フランス語初級Ⅰ	修得することが望ましい。	履修1年目
		フランス語初級Ⅱ		
		フランス語中級	修得することが望ましい。	履修2年目
専門教育科目	専 門 科 目	フランス語コミュニケーション1	2単位	履修1年目
		フランス語コミュニケーション2	2単位	
		フランス語作文1	2単位	履修2年目
		フランス語作文2	2単位	
		フランス語コミュニケーション3	2単位	
		フランス語コミュニケーション4	2単位	
		フランス文化総合演習1	2単位	
		フランス文化総合演習2	2単位	
		フランス語作文3	2単位	履修3年目
		フランス語コミュニケーション5	2単位	
		フランス語コミュニケーション6	2単位	
		フランス文化総合演習3	2単位	
合計単位			24単位	

人文学科 中国語副専攻コース

授業科目の履修方法

中国語副専攻コースは1年次より開講する。

【Aコース】

授業科目区分		授業科目名	修了資格単位	履修順序
教養教育科目	外国語科目	中国語初級Ⅰ	修得することが望ましい。	履修1年目
		中国語初級Ⅱ		
専門教育科目	専 門 科 目	中国語コミュニケーション1	2単位	履修1年目
		中国語コミュニケーション2	2単位	
		中国語中級1	2単位	履修2年目
		中国語中級2	2単位	
		中国語中級3	2単位	
		中国語中級4	2単位	
		中国語コミュニケーション3	2単位	
		中国語コミュニケーション4	2単位	
		時事中国語1	2単位	履修3年目
		時事中国語2	2単位	
		中国語上級	2単位	
		中国社会文化学演習	2単位	
合計単位			24単位	

【Bコース】

授 業 科 目 区 分		授 業 科 目 名	修了資格単位	履修順序
教養教育科目	外国語科目	中国語初級Ⅰ 中国語初級Ⅱ	修得することが望ましい。	履修1年目
専門教育科目	専 門 科 目	必 修 科 目		
		中国語コミュニケーション1	2単位	履修2年目
		中国語コミュニケーション2	2単位	
		中国語中級1	2単位	
		中国語中級2	2単位	
		中国語中級3	2単位	
		中国語中級4	2単位	
		中国語コミュニケーション3	2単位	
		中国語コミュニケーション4	2単位	
		時事中国語1	2単位	履修3年目
		時事中国語2	2単位	
		中国語上級	2単位	
		中国社会文化学演習	2単位	
合 計 単 位			24単位	

7. 履修に関する事項

- 1 授業科目は、それぞれの配当年次に履修するものとする。
- 2 学生は、卒業要件科目・単位数等を考慮のうえ履修すること。なお、卒業要件科目・単位数は入学年度の学生便覧（履修細則）によること。
- 3 他学部開講の科目（教職関係科目を含む。）を履修する場合は、当該科目の開講される学部において、時間割、シラバス等を確認した後、本学部で履修手続きをとらなければならない。
- 4 教養教育科目の履修は、年間32単位を限度とする。
 - *履修登録をして「不可」又は「F」となった科目、「人文学の基礎（平成21年度以前入学生については基礎科目1）」及び「大学コンソーシアム岡山で履修した科目」の単位は上記32単位に含まれます。入学時のTOEIC-IP試験等により認定された単位は含みません。
 - *これは、履修上限についてのもので、卒業資格単位とは異なります。例えば、TOEIC-IP試験で認定された単位は履修の上限に含みませんが、卒業資格単位としては認められます。
 - *なお、平成20年度以降入学生について、教養教育科目の「基礎英語」は上記32単位に含みません。
- 5 履修手続は、通常の開講科目と集中講義に分けて手続期間が定められており、それぞれについてWeb登録により手続しなければならない。
 - *平成22年度の通常科目及び集中講義の履修手続期間は別途掲示により通知します。
- 6 留学後の取扱いについて
 - (1) 専門教育科目の履修手続等について
前期終了科目については、渡航前に単位修得を認める。
 - (2) 留学大学で修得した単位の取扱い
留学大学で修得した単位は、60単位を限度とし、教育委員会の議を経て、本学での修得単位として認定することがある。
なお、3年次後期から4年次後期の間の留学の場合には、留学先の大学で修得した単位のうち、各専修コースの課題演習科目2単位を修得単位として認定することがある。
- 7 試験心得（専門教育科目）
専門教育科目の期末試験（平常の考査を含む。）の受験にあたっては、次の各事項に留意すること。
 - (1) 受験の際は、必ず学生証を携帯すること。
 - (2) 受験にあたっては、厳正な態度で臨み、誤解を招くような態度や不正行為は厳に慎むこと。なお、監督者の指示に従わないとき、又は不正行為があると認められた者に対しては、学則第58条により厳重な懲戒処分を行う。

8. 「専修コース課題演習」履修に係る取扱いについて

平成16年度以降入学者が履修する「専修コース課題演習」については、卒業論文の執筆に向けての段階的な指導を前提に開講するものであり、原則として3年次後期から4年次後期にわたって、ひとつの専門領域等で継続して履修することとし、履修方法の詳細については各専修コースで定めるものとする。

9. 岡山大学文学部成績評価基準

岡山大学文学部規程（平成16年岡大文規第1号）第10条の規定に基づき、岡山大学文学部成績評価基準を次のように定める。

- 1 成績評価は、出席状況、受講態度、報告・発表状況、レポート、試験など多様な要素を組み合わせて行うものとする。一回の試験又は一回のレポート提出のみで成績評価を行うことはしない。
- 2 試験、レポート等は、成績評価の際に、受講及び受講のための学習準備を通じて得られた学習成果が、適切に反映されるよう課題設定を工夫するものとする。
- 3 各授業科目の成績評価の方法等は、シラバス（講義要覧）に明記するとともに、各授業において、学習目標と関連付けながら説明するものとする。また、優、良、可及び不可（平成20年度以降入学生にあつては、A+、A、B、C及びF）等の区分についても併せて説明する。
- 4 ガイダンス科目及び外国語科目のように、性格を同じくする授業科目を複数コマ開講する場合の成績評価の方法等は、担当教員による評価の差が生じないように、相互に調整し、可能な限り統一するものとする。また、1授業科目を複数の教員で担当する場合も同様とする。
- 5 卒業論文の評価は、次の項目等について、総合的に行うものとする。
 - ① 論文としての形式を満たしているか。
 - ② 必要な調査や実験、または文献の収集を行い、かつ適切な分析が行われているか。
 - ③ 論文のテーマ、目的、方法が明確であるか。また、論旨が明晰であり、言語表現が適切であるか。
 - ④ 口述試験において質問に適切に答えられたか。なお、論文の形式等については、3年次後期のもしくは4年次前期の課題演習において、担当の教員が指示するものとする。
- 6 成績評価に関する学生の質問及び疑問等には、適切に対応するものとする。

10. 岡山大学の期末試験等における受験心得

受験にあたっては、次の各事項に留意してください。（不明な点については授業担当教員へ確認してください。）

- ① 受験する学生は特別の指示がない限り、試験開始時刻の5分前までに所定の教室に入室を完了すること。
- ② 監督者が指定した座席において受験すること。
- ③ 受験中は必ず学生証を机の上に置くこと。
ただし、学生証を紛失又は忘れた場合は、監督者に申し出て、その指示に従うこと。
- ④ 受験中、机の上に置くことができるのは、学生証、筆記用具及びその他特に許可されたものに限る。それ以外の携行品はカバン等に入れて、座席の下に置くこと。携帯電話・PHS等は、必ず電源を切って入れること。
- ⑤ 解答用紙には、所属学部名、入学年、番号及び氏名等の必要事項を必ず万年筆又はボールペンで記入すること。
- ⑥ 試験開始後20分を経過するまでは退室できない。
- ⑦ 試験開始後20分を経過した場合は入室できない。
- ⑧ 答案用紙は、特に指定がない場合、教卓上に提出するか、又は監督者に直接手渡すこと。自己の机の上に置いて退出すると無効になる。
- ⑨ 受験にあたっては、厳正な態度で臨み、誤解を招くような態度や不正行為は厳に慎むこと。
なお、監督者の指示に従わない者、及び不正行為があると認められた者に対しては、学則第58条（大学院学則第49条）により厳重な懲戒処分を行う。

11. 就業体験実習（インターンシップ）の履修について

就業体験実習の概要

1. 趣旨・目的

本実習は、在学中に一定期間、民間企業や行政官庁その他関連する機関において就業体験を行うことにより、実践を通じて社会的な知見を身につけさせるとともに、自らに適した将来の進路を選択する能力の向上を図ることを目的とする。

2. 対象学生

原則として3年次生とする。

本実習の履修にあたっては、指導教員が履修の指導を行う。

3. 実施時期等

実習の実施時期は、原則として夏季休業中の2週間とする。

実習の実施にあたって、原則として学生は受入機関からの報酬等は受けないものとする。

4. 授業内容等

授業内容は、本実習の趣旨・目的に照らして、受入機関と文学部就職指導専門委員会が事前に協議し、決定する。

5. 成績評価

文学部就職指導専門委員会は、学生の提出する「実習結果報告書」、受入機関の「インターンシップ実施評価報告書」及び指導教員の「実習指導意見書」に基づき、成績の評価を行う。

6. 事故対策

履修中の事故に対処するため、学生は、学生教育災害傷害保険及び賠償責任保険等に加入するものとする。

7. 守秘義務

受入機関の業務との関係が必要があると認められる場合には、受入機関と文学部、学生との間で、履修中に学生が知り得た情報について守秘義務等に関する覚書または誓約書を交わすこととする。

8. 運営機関

本実習の運営は、文学部就職指導専門委員会が行う。

授業科目区分	専門科目
授業科目	就業体験実習（インターンシップ）
単位	2単位
実施時期	原則として夏季休業中2週間
配当年次	3年次生
履修手続	詳細については別途掲示する。

12. 卒業論文について

卒業論文の申告事項について（平成16年度以降入学者用）

- 1 人文学科の課程を修め学士の学位を得るためには、卒業論文の審査に合格し、その成績をもって所定の単位の一部を満たさなければならない。
- 2 卒業論文提出予定者は、当該専修コースの教員と相談の上、所定の様式により研究テーマを10月11日午後 5時15分までに教務学生係に届け出ること。
なお、当日が休日（土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日をいう。以下同じ。）の場合は、その翌日の午後 5時15分までとし、連休となる場合は、最終休日の翌日の午後 5時15分までとする。
- 3 卒業論文は、所定の手続に従い、1月31日午後 5時15分までに教務学生係に提出すること。
なお、当日が休日の場合は、第 2項の規定を準用する。
- 4 前期卒業を希望する者は、当該専修コースの教員と相談の上、4月30日午後 5時15分までに教務学生係に所定の手続を行い、7月31日午後 5時15分までに教務学生係に卒業論文を提出すること。
なお、当日が休日の場合は、第 2項の規定を準用する。
- 5 卒業論文の成績審査は、論文 1点につき 2人以上の教員がこれにあたり、各々の点数の平均点をもって専門科目10単位の成績とする。
(注) 論文の形式については、指導教員の指示を受けること。

卒業論文の申告事項について（平成15年度以前入学者用）

- 1 人間学科、行動科学科、歴史文化学科、言語文化学科の課程を修め学士の学位を得るためには、卒業論文の審査に合格し、その成績をもって所定の単位の一部を満たさなければならない。
- 2 卒業論文提出予定者は、当該履修コースの教員と相談の上、所定の様式により研究テーマを10月11日午後 5時15分までに教務学生係に届け出ること。
なお、当日が休日（土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日をいう。以下同じ。）の場合は、その翌日の午後 5時15分までとし、連休となる場合は、最終休日の翌日の午後 5時15分までとする。
- 3 卒業論文は、所定の手続に従い、1月31日午後 5時15分までに教務学生係に提出すること。
なお、当日が休日の場合は、第 2項の規定を準用する。
- 4 前期卒業を希望する者は、当該履修コースの教員と相談の上、4月30日午後 5時15分までに教務学生係に所定の手続を行い、7月31日午後 5時15分までに教務学生係に卒業論文を提出すること。
なお、当日が休日の場合は、第 2項の規定を準用する。
- 5 卒業論文の成績審査は、論文 1点につき 2人以上の教員がこれにあたり、各々の点数の平均点をもって専門科目14単位の成績とする。
(注) 論文の形式については、指導教員の指示を受けること。

13. 文学部既修得単位の認定内規

第1条 この内規は、文学部規程第19条第1項の規定に基づき、既修得単位の認定に関し、その取扱いを定める。

第2条 既修得単位の認定の出願資格は、次のとおりとする。

- 一 大学（外国の大学を含む。）又は短期大学（外国の短期大学を含む。）を卒業した者又は退学した者
- 二 科目等履修生として単位を修得した者

第3条 認定できる授業科目の区分及び認定単位は、次のとおりとする。

- 一 教養教育科目のうち外国語科目 8単位まで
- 二 前号以外の教養教育科目 12単位まで
- 三 専門教育科目 10単位まで

第4条 既修得単位の認定を受けようとする者は、指定する日までに、次の書類を学部長に提出しなければならない。

- 一 既修得単位認定願（本学部所定の様式）
- 二 卒業証明書又は在学期間証明書
- 三 成績証明書及び講義内容を明示できるもの（講義概要等）

第5条 認定された授業科目は、卒業要件単位数とする。なお、成績評価の表示は「認定」とする。

(附則 省略)

14. 岡山大学学生が科目等履修生として学部又は大学院の授業科目を履修する場合の取扱いについて

〔平成19年2月8日〕
〔学 長 裁 定〕

- 第1 この取扱いは、岡山大学（以下「本学」という。）の学部学生及び大学院学生（以下「本学学生」という。）が、科目等履修生として、本学の学部又は大学院の研究科（以下単に「研究科」という。）の授業科目（教養教育科目を含む。以下同じ。）を履修する場合の要件及び手続きに関し、各学部及び研究科の定めるもののほか、必要な事項を定める。
- 第2 対象の授業科目
履修対象の授業科目は、科目等履修生の受入れ制度を整備している学部及び研究科が開講する授業科目とする。ただし、各学部及び研究科において、履修科目数及び履修対象科目等を制限している場合は、各学部及び研究科の定めるところによる。
- 第3 履修要件
- 1 学部学生の場合（次の要件をすべて満たす者）
 - （1）最高年次の者又は所属学部において特に必要と認められた者
 - （2）当該学生の指導教員の承諾を得た者
 - （3）履修を希望する研究科において、出願資格を認められた者
 - （4）履修を希望する研究科の授業科目の担当教員の承諾を得た者
 - 2 大学院学生の場合（次の要件をすべて満たす者）
 - （1）当該学生の指導教員の承諾を得た者
 - （2）履修を希望する学部又は法務研究科において、出願資格を認められた者
 - （3）履修を希望する学部又は法務研究科の授業科目の担当教員の承諾を得た者ただし、各学部又は法務研究科の事情によっては、授業科目の履修許可方法を別に定めることができる。
- 第4 履修できる授業科目数・単位数
- 1 学部学生
所属学部の定めるところによる。
 - 2 大学院学生
所属研究科の定めるところによる。
- 第5 出願及び期間延長手続き
- 1 出願書類
本学学生が科目等履修生として学部又は研究科の授業科目を履修する場合は、別紙様式1「科目等履修生（入学）願書（本学学生用）」に、在学証明書（入学予定者にあつては、入学予定の学部又は研究科が交付する入学予定証明書）を添付し、履修希望の授業科目を開講する学部又は研究科の長に願出するものとする。
ただし、各学部及び研究科の事情によっては、本様式に準じた様式を定めることができる。
 - 2 期間延長願書類
本学学生が科目等履修生としての期間を延長する場合は、別紙様式2「科目等履修生（期間延長）願書（本学学生用）」により、科目等履修生として在籍している学部又は研究科の長に願出するものとする。
ただし、各学部及び研究科の事情によっては、本様式に準じた様式を定めることができる。
 - 3 出願・期間延長申請期間
原則として、次に掲げるとおりとし、各学部及び研究科の事情によっては、出願の時期を別に定めることができる。
 - （1）前期
3月28日～4月12日
ただし、受付開始日及び締切日が休業日の場合は、翌業務日とする。
 - （2）後期
9月20日～9月28日
ただし、受付開始日及び締切日が休業日の場合は、翌業務日とする。
 - 4 出願及び期間延長に係る選考結果の通知方法は、各学部又は研究科の定めるところによる。
- 第6 授業料、入学料及び検定料
授業料、入学料及び検定料は、岡山大学聴講生及び科目等履修生に係る授業料、入学料及び検定料の取扱いに関する要項（平成19年2月8日学長裁定）の規定により、不徴収とする。
- 第7 その他
この取扱いは、平成19年2月8日から施行し、平成19年度に係る科目等履修生から適用する。